

# polka drops

## ウール素材と裏地の基本的な取り扱い方

### ウールの取り扱いについて

#### ウールの水通し・地直し

ウールは水洗いできないものも多く、一般的には水通しをしません。  
スチームアイロンで蒸気を当てながら、地の目（生地縦と横のライン）を整えます。

ウールは織りの甘い（ほつれやすい・伸びやすい）物が多いので、  
注意が必要です。絶対伸ばしたくない箇所には端うちテープなどを使います。

### 裏地の取り扱いについて

#### 裏地の種類

レーヨンやキュブラ、ポリエステルなど。  
織り方もそれぞれあり、またニット用などもあります。  
表地の特性に合わせて選んでいきます。肌触りが良いもの、  
縫いやすさ重視のものなど好みもありますが、  
裏地は表地を保護し、型崩れを防ぐ役割もありますので、  
ボトムなど（股のところの摩擦などで）傷みやすいアイテムや  
場所に使う場合は、強度のあるものを選ぶのが良いでしょう。

#### 裏地の裁断

薄くて滑りやすい裏地の裁断は難しいと感じる人が多いと思います。  
そのまま型紙を置いて裁断する方法、ハترون紙など薄い紙を挟んで  
紙と一緒に裁断する方法（下から裏地、ハترون紙、裏地、パターン  
の順に重ね裁断する方法。輪裁ちの場合も生地間に紙を挟んで  
裁断します。裁断バサミで紙を切ると良くありませんが、  
ハترون紙などのごく薄い紙で、頻繁でなければ問題ないでしょう）  
ロータリーカッターも薄い裏地の裁断には向いていますが、  
大きな下敷きが必要になりますので注意が必要です。

#### 裏地の地直し

水通しは必要ありません。地の目がゆがんでいる場合がありますので、  
空アイロンの蒸気を当てながら整えていきます。  
（絹などの高級素材、レーヨンやキュブラなど、裏地の多くは  
水ジミができる恐れがありますので、スチームは使わないでください）

#### 裏地を縫う

素材に合わせた針と糸を使います。細めの針で、糸は80番くらいの  
細番手を使うときれいに仕上がります。布をスムーズに送るために  
ハترون紙と一緒に重ねて縫って、後でハترون紙だけははず  
テクニックもあります。試し縫いしてベストな方法を探してみてください。